



▲子ども達による伊勢音頭

224年続く伝統のお祭り

蕨平で遷宮祭

5月5日、6日、蕨平地区で大雷・駒形神社の遷宮祭が行われました。志賀行政区長によると、この遷宮祭は宝暦8年（1758年）にまだ比曾・長泥・蕨平が1つの邑だった頃、鎮守様として大雷神社・駒形神社がまつられた頃から行われているお祭りで、前回平成5年から8年ぶりの遷宮祭とのことでした。

当日は菅野村長、加藤

貞雄県議会議員、鳥居の建設をした村森林組合の山田進組合長らを招いて式典が行われたほか、地元芸能保存会の宝財踊りをはじめ、婦人会による手踊り、また村でも珍しい子供たちによる伊勢音頭などが披露されました。

また、もち米約1升分の投げもちが行われ、住民らは盛大に遷宮祭を祝っていました。

秋には、収穫祭が予定されているとのことでした。

みんなのひろば

ここはみなさんが主役のひろばです。

身近な話題をどんどんお寄せください。

■役場企画室 TEL42-1613



▲大きいおイモに育ってね

おいしいサツマイモ 大きく育て

園児がサツマイモの定植

5月28日、飯樋幼稚園で園児たちが200本のサツマイモの苗を植えました。

快晴に恵まれたこの日、父兄らが整備した園庭南側畑に集合した園児らは、先生たちの指導に従って一人一本ずつサツマイモの苗を畑に植え、小さな手で「土のふとん」をかえてトントんと叩いていました。また、収穫まで誰のサツマイモなのかわかるようにと、植えた苗のそばには竹で作られた一人ひとりの名前入りの棒を差しました。

20の

ツイン



渡邊妙子さん

(小宮出身)

◆「悩み」

この「20のリレートーク」の依頼が来て、私は書くことに悩んだ。なぜなら、今自分が何をすべきなのか定まらないからである。

小高商業を卒業し、福島の短大で幼稚園保育を学んだ。両親には本当に感謝とわがままばかりですまないという気持ちで一杯だ。だが、飯館を離れて5年ぶりに家に帰るとなんだか居心地が悪く落ち着かない。友人は

「やっぱり自分の家はいねえ！」と言うが、私にはなんだかかこの中に入られていたような気持ちでした。

私は、両親と自分の恋愛の話や考え方、友人の話などを多くする。理由は簡単、もっと私を知って欲しい、認めて欲しいから。

けれど、私にはなかなか言い出せないことがある。今の私の仕事についてだ。短大を終え、私は父の会社に就いた。安易に決めたのではなく考えて決めたことだ。だが、ある知人に「いつまで父親の腕にぶらさがっているんだ!」と言われた時、私にとってそれは言い表せないほどのショックだった。周りから見るとそう見えるのだと:(この後私は部屋で涙してしまった)。

私の中には、「このままで良いのだろうか?後悔しないのだろうか?」

と問いかける私と、「今の仕事を中途半端にし、逃げるのか?」という私がいる。考えすぎて体調を壊しかけたこともあった。

だが、そんな私に恋人や友人たちはこう言葉をかけてくれた。「決めるのは自分でしょ。」

私は良い人に巡り会えた。

そうなのだ、いくらグダグダ悩んでも結局、決めることも行動することも自分なのだ。この「20のリレートーク」に自分の気持ちを書き出してみて、心の整理がついた。

こんな私から皆さんに偉そうなことは言えないけど、もし何かで道に迷っていたり、悩んでいたたりしたなら、一杯悩んだほうがいい。だけど、一人より二人だね。でも甘えちゃいけないんだ。決断するのは自分だからって伝えたい。

花塚山で山開き

地元住民が安全祈願

4月29日、花塚山の山開きが地元上飯樋地区の住民らによって行われました。

山開きには地元大谷一彦行政長はじめ60人あまりが参加し、登山者の安全を祈って安全祈願祭が行われました。

花塚山は平成13年度に県の補助を受け、小宮地区にある野手上山と一緒に展望台と遊歩道が整備されています。

上飯樋行政区では、今後植樹等を行い、より特徴のある美しい花塚山登山道の整備を計画しているとのことです。



▲祈願祭のようす

20の

ツイン



渡邊妙子さん

(小宮出身)

◆「悩み」

この「20のリレートーク」の依頼が来て、私は書くことに悩んだ。なぜなら、今自分が何をすべきなのか定まらないからである。

小高商業を卒業し、福島の短大で幼稚園保育を学んだ。両親には本当に感謝とわがままばかりですまないという気持ちで一杯だ。だが、飯館を離れて5年ぶりに家に帰るとなんだか居心地が悪く落ち着かない。友人は

「やっぱり自分の家はいねえ！」と言うが、私にはなんだかかこの中に入られていたような気持ちでした。

私は、両親と自分の恋愛の話や考え方、友人の話などを多くする。理由は簡単、もっと私を知って欲しい、認めて欲しいから。

けれど、私にはなかなか言い出せないことがある。今の私の仕事についてだ。短大を終え、私は父の会社に就いた。安易に決めたのではなく考えて決めたことだ。だが、ある知人に「いつまで父親の腕にぶらさがっているんだ!」と言われた時、私にとってそれは言い表せないほどのショックだった。周りから見るとそう見えるのだと:(この後私は部屋で涙してしまった)。

私の中には、「このままで良いのだろうか?後悔しないのだろうか?」

と問いかける私と、「今の仕事を中途半端にし、逃げるのか?」という私がいる。考えすぎて体調を壊しかけたこともあった。

だが、そんな私に恋人や友人たちはこう言葉をかけてくれた。「決めるのは自分でしょ。」

私は良い人に巡り会えた。

そうなのだ、いくらグダグダ悩んでも結局、決めることも行動することも自分なのだ。この「20のリレートーク」に自分の気持ちを書き出してみて、心の整理がついた。

こんな私から皆さんに偉そうなことは言えないけど、もし何かで道に迷っていたり、悩んでいたたりしたなら、一杯悩んだほうがいい。だけど、一人より二人だね。でも甘えちゃいけないんだ。決断するのは自分だからって伝えたい。

花塚山で山開き

地元住民が安全祈願

4月29日、花塚山の山開きが地元上飯樋地区の住民らによって行われました。

山開きには地元大谷一彦行政長はじめ60人あまりが参加し、登山者の安全を祈って安全祈願祭が行われました。

花塚山は平成13年度に県の補助を受け、小宮地区にある野手上山と一緒に展望台と遊歩道が整備されています。

上飯樋行政区では、今後植樹等を行い、より特徴のある美しい花塚山登山道の整備を計画しているとのことです。



▲祈願祭のようす